

婦人の学習機会の構造

広島大学 池田秀男

1 研究のねらい

女性の平均寿命は、78.83歳(昭和56年7月厚生省発表の簡易生命表による)である。この80年の女性の人生の中で学校教育が占めるのは、12年が16年間であり、全人生の約1/5に限定されている。学校卒業後の60年余の人生を考えると、どんなに学校教育が効率よく準備したとしても、この長い人生に必要な学習を前もって準備することは想像し難い。さらに、女性にとって若い年齢のとき受ける教育と、成人して従事する活動内容との間には、男性における以上に非連続性があり、各ライフステージにおける学習が必要だといわれている。

これらは、学校卒業後における女性の継続的学習の必要性を暗示している。この必要性を満たすために、現在、成人期の女性に対してどんな学習機会が与えられており、それは女性の生涯教育の理念に照らしてどんな問題を含んでいるのか、この研究は、このような問題意識のもと、成人期の女性の学習機会の構造と内在する問題を実証的に明らかにしようとしたものである。

2 研究の結果

学習機会の提供は、人びとに利用できる学習の「場」や「実質」の数の面から概念化されるか、婦人の学習機会は多様であるため、その定義の仕方によって適切に確定できない。このことを前提として、ここでは学習者サイドから、学習者が利用したり参加したりしている学習活動のすべての機会を「学習機会」として捉える。したがって、それは定型的学習と非定型的学習の両方の機会を含む。

(1) 学習機会の提供・利用の実態

社会教育は「自発的教育」として自由参加を原則としている。この種の定型的学習機会の利用実態は表1

表1 年齢別参加率

参加状況	年齢 20~24歳	25~29	30~34	35~39	計
いま参加している	22.3	10.4	19.0	25.0	18.6
まだ参加したことがない	47.4	51.6	44.5	32.1	43.8
以前に参加したことがある	30.3	38.0	36.5	42.9	37.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

に対して職場内の研修機会は、ある種の「強制的性格」をもっている。これへの参加率を年齢階層別に示すと、

20~24歳26.8%、25~29歳39.1%、30~34歳26.7%、35~39歳23.9%となっている。

これらに就いて日常生活の中の非定型的学習機会の利用実態は、表2に示す通りである。

表2 家庭での年齢別学習活動実施率

利用メディア	年齢 20~24歳	25~29	30~34	35~39	計
ラジオ・テレビ	23.4	19.1	25.1	25.3	23.0
新聞雑誌	39.5	32.4	38.2	41.0	37.4
通信教育・図書	25.5	18.6	25.5	23.6	22.8
話し合い	52.6	41.4	50.5	54.9	49.6

(2) 学習内容と学習機会の関係

現在、社会教育として婦人に公的に提供されている学習機会を、学習内容と学習施設と学習集団の3つの面から示すと、表3と表4と表5に見られる通りである。

表3 1年間に学習した内容の構造(1回以上参加した者の%)

学習内容	年齢 20~24歳	25~29	30~34	35~39	計
育児や子どもの教育	25.3	46.8	65.7	69.7	44.4
料理や料理法	28.5	21.2	32.2	40.1	30.5
家庭経済や家計	3.1	5.0	10.7	14.0	8.5
茶道や華道	3.7	11.8	17.4	22.9	20.7
音楽や絵画や書道	31.0	17.6	24.4	28.8	24.8
政治や経済や法律	7.4	3.6	4.2	9.9	6.1
同和問題や人権尊重	16.8	9.5	16.6	30.3	18.3
歴史や文学や語学	8.1	4.4	4.6	9.0	6.3
俳句や短歌や手芸	15.5	14.0	23.8	36.9	23.2
保健や健康管理	20.4	20.5	27.2	30.2	24.9
スポーツやダンス	43.8	28.0	39.4	48.0	39.2
職業の知識や技術	24.7	14.8	15.7	21.0	18.4
ボランティアや地域活動	10.5	7.3	16.5	25.7	15.3
婦人の生き方や婦人問題	3.1	6.1	16.6	18.7	11.7
消費者問題や公害問題	6.1	6.5	14.5	19.8	12.2
宗教や倫理	8.6	8.3	11.9	18.0	12.0
その他	0.0	0.4	1.6	1.2	0.8

表4 1年間に利用した社会教育・文化施設

施設	年齢 20~24歳	25~29	30~34	35~39	計
地区公民館	13.8	31.2	35.3	44.1	32.8
中央公民館	5.7	6.6	8.7	10.8	8.2
市民会館	24.1	16.6	19.0	24.4	20.7
図書館	20.7	10.3	18.3	12.9	14.8
婦人会館	1.1	1.7	4.0	2.5	2.4
勤労婦人センター	8.0	7.0	9.9	17.6	10.8
解放会館	8.6	8.0	6.3	7.5	7.6
各種学校	17.8	5.3	2.4	7.2	7.3
カルチャ・センター	4.0	2.3	2.4	0.1	2.2
YMCA	2.9	0.1	0.1	0.0	0.1
市立体育館	7.5	3.3	4.8	6.1	5.2
青年の家	5.7	3.0	0.1	1.1	2.4
社会福祉会館	4.6	4.3	2.8	3.9	3.9
老人大学	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
保健所の講座	8.6	8.0	5.2	2.2	5.8
デパートの文化施設	7.5	4.3	2.4	3.9	4.3
教育産業や個人の教授所	12.6	3.7	4.8	5.4	6.0
町内会の集会所	6.9	9.0	16.3	20.1	13.5
企業の文化施設	34.5	3.7	2.0	0.1	2.5
幼稚園や学校	14.9	24.9	44.4	40.9	32.5
農協の学習会	1.1	0.1	2.4	2.9	0.2
福山の博物館	6.3	9.3	13.1	11.8	10.4
遺跡調査研究所	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.3	3.0	0.1	1.1	1.8
利用していない	19.5	27.9	20.2	13.3	20.5

表5 1年間に参加したグループやサークル活動

グループ	年齢	20～24歳	25～29	30～34	35～39	計
P T A 関係		0.0	5.0	30.2	46.7	22.0
ボランティア関係		4.8	0.1	1.6	2.6	2.1
婦人会関係		11.9	20.1	31.0	38.1	26.4
職場関係		25.0	10.1	7.9	12.2	12.7
農協関係		0.1	1.0	1.6	0.0	0.1
老人クラブ関係		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
青年団関係		11.3	2.3	0.0	0.0	2.7
町内会関係		14.3	18.5	30.2	38.1	26.1
友人や仲間関係		35.7	21.1	22.6	34.8	27.7
生活改善友の会		0.0	1.0	1.2	0.0	0.1
その他		1.8	1.7	5.2	4.1	3.2
参加していない		45.8	54.4	38.1	24.1	40.5

(3) 学習機会へのアクセスと成層化

婦人教育としての学習機会の利用実態を、学習者の学校教育期における学業達成水準との関係で見ると、図1に示す通りである。また学習機会の利用回数と現在の学習活動への参加率との関係は、図2に示すような関係が見出される。

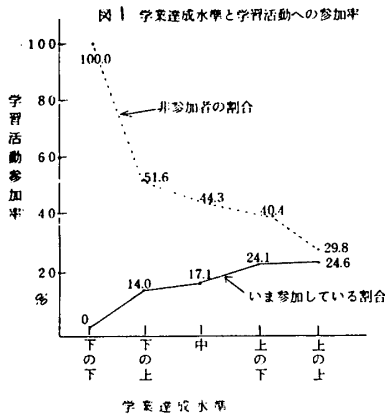
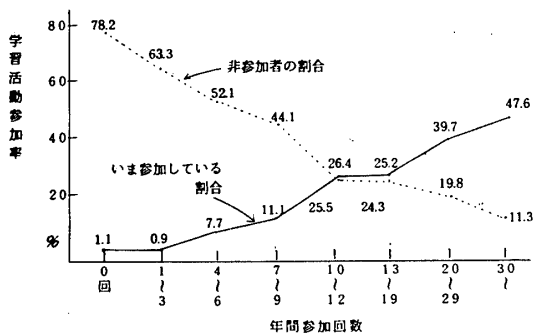


図2 学習活動への参加回数（年間）と現在の参加率



(4) 学習機会の拡がりや供給源

知識・技術の学習領域によって、利用する学習機会のパターンや供給源は異なる。このことを地域社会の学習機会の供給源との関係で示すと、表の通りである。

表6 知識の領域別の学習供給源

知識・技術の領域	学習の供給源	親やきょうだい	学校の家庭科	大学の家庭科	各種学校	通信教育	市民講座や学習会	自主グループや個人教授	ラジオやテレビ	雑誌や新聞の記事	近所の人	計
健康生活		21.4	11.2	3.0	4.3	0.5	4.7	1.7	14.9	33.9	4.4	100.0
家族の人間関係		66.8	2.4	1.2	0.5	0.0	3.9	0.7	6.9	7.8	9.8	100.0
育児や家庭教育		28.1	7.5	5.0	3.0	0.2	17.5	1.1	7.7	21.0	8.9	100.0
家計のやりくり		48.0	11.3	2.5	1.1	0.3	1.7	1.4	4.9	21.3	7.5	100.0
家計のやり方		42.7	15.0	4.2	1.6	0.4	1.9	1.2	6.9	19.4	6.7	100.0
家族の慰安・娯楽		28.1	1.5	1.0	1.0	0.8	5.7	4.5	16.9	26.1	14.4	100.0
近所づきあい		40.6	0.1	0.1	0.0	0.0	1.1	0.5	2.1	3.4	51.8	100.0
家庭の生活設計		50.8	2.8	1.6	1.2	0.3	7.2	3.1	7.2	22.3	3.5	100.0
婦人問題		3.1	2.1	2.9	0.8	0.3	21.4	2.7	22.6	40.9	3.2	100.0
消費者問題		1.3	1.3	1.6	0.4	0.1	11.3	1.4	46.4	33.9	2.3	100.0
心の問題		21.6	4.1	3.4	2.4	0.4	8.8	6.7	9.8	36.7	5.8	100.0

3 学習機会の拡充に関する諸問題

- ① 学習機会のどの部分を拡充する必要があるか。20代後半婦人の学習機会には特別の配慮が必要のように見える。
- ② 婦人の公的な学習機会として供給される学習内容は、女性の生涯的能力開発から見ると、どんな偏りや遅れが窺われているか。現行のパターンは性別役割を固定化し、活動分野を制約する傾向があるように見え、これとの関連で女性のフル・ソーシング・ジェネレーションのマスター・プランの解明が急がれる。
- ③ 学習機会の利用者の成層化は、社会変化の加速化と高度化との関連で、個人の（特に低参加者）機能的識字能力と社会の統合に対するどんな帰結をもたらすか。現行の延長線上での生涯的機会の拡充は、学習参加者群と学習非参加者群との間に、学習格差を増幅し、社会の統合にもネガティブな機能をもつことが予想される。
- ④ どんな知識領域に関し、地域社会の教育諸資源を利用した学習機会のどの部分をどのようにして活性化することができ、またする必要があるのか。これは学習機会の拡充への構造的接近法を示唆し、学習機会の拡充は家庭や学校や地域資源との有機的関連のもとに統合的に位置づけることを可能にする。